# 特別天然記念物・ニホンカワウソ

佐高所蔵の特別天然記念物シリーズ第３弾「**ニホンカワウソ** *Lutra lutra whileleyi* 」。トキ、アホウドリと並んで佐高が誇る貴重な標本である。標本のラベルには、「産地 陸前 四十四年十月採集」とある。おそらく、明治４４年（１９１１年）の１０月に陸前（現在の宮城県と岩手県の一部）で採集されたニホンカワウソの幼獣（性別不明）であろう。ちょうど今から１００年前に採集され、それ以来、創立１１０周年を迎えた佐野高校の歴史の大半をともにしてきたのである。

ニホンカワウソは、かつては日本中に広く生息していたが、保温力に優れる良質な毛皮を求めて乱獲が進み、生息数が激減した。１９２８年に保護のために禁猟となり、１９６５年には国の**特別天然記念物**に指定されたが、河川の護岸工事や水質悪化、周辺地域の開発、密猟などによって、絶滅の淵に追いやられている。環境省のレッドリスト（2007）では「**絶滅危惧ⅠA類**」に指定されているが、高知県を最後に**1990年代に絶滅**した可能性も高い。

栃木県での生息情報については「**ニホンカワウソ雑記**（御厨（みくりや）正治：農林省日光有益獣増殖所、１９７６）」に詳しい。奥日光では昭和初期（１９３０年頃）まで確実に生息しており、１９５０年頃には捕獲情報があった。さらに１９７５年には、矢板市内の内川、芳賀町の野元川での目撃情報があった。しかし、カワウソ以外の水棲の哺乳動物であった可能性もあり、今となっては確かめるすべもない。

ところで、栃木県立博物館には、ニホンカワウソ**成獣**の剥製（性別不明、産地情報なし）が１頭と、前橋市で１８８４年に捕獲された雌から得られた**胎児2頭**のアルコール標本が収蔵されている。いずれも収蔵庫で保管されており、普段は目にすることはできない。いまや県内でニホンカワウソを見ることができるのは、佐高くらいなのかもしれない。

↑ニホンカワウソの成獣の剥製（県立博物館所蔵）

↑胎児２頭の標本とそれが入っていた桐箱（同）